□はリンク　　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名　和楽の家　久米　※

日付　平成　21年　2月　17 日

評価機関名　特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験15年

評価調査員　介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

1．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

久米南町という地域には何も縁もなかったが、或る法人からこの町でグループホームの開設する権利を譲り受け、平成18年3月に開設した。母体の法人としては現在3つのホームがある中で最初のグループホームとなるが、町の協力を得られつつも2つのユニットを満床にするまでに大分苦労したそうだ。開設して丁度2年9か月経過した時に訪問させて頂いた。当初は職員の離職も多く、このホームのカラーに合った職員が安定するまで大分期間も要したが、ようやく安定してきた矢先に管理者の退職があって、法人の副社長と2人のリーダー（計画作成担当）が協力して、職員と共に目指すグループホームにしていこうと努力しているのが3年目になった今日である。

訪問調査時、男性利用者が「自分の立てた家を見に行きたい」という希望に、管理者（福社長）は「天気も良いし行ってみよう」」ということになり、同じく利用している奥さんも一緒に行くことになり、調査員も同行させてもらった。道を迷い、行ったり来たりでやっと見つけた家は天空の上にある高い山の上にあったそうだ。利用者夫妻は家を見て、墓も参って、安どの笑みを交わして帰途についた。本人の希望があって、その人の思いを叶えてあげようとすぐに対応するホームの姿を見た。その場に立っただけで、これまでの夫婦が歩んできた人生が見える気がしたそうだ。

その他にも、記録からも利用者の気持ちを察知したり、汲み取って対応している姿を感じることができる。利用者の居室で又は利用者と一緒に入る浴室で、利用者の気持ちや戸惑う心の中を見せてくれたことや職員を気遣ってくれた事等の利用者と職員との心の通いを垣間見ることができた。

“やさしくする”“しからない”“大きな声を出さない”がこのホームのケアのモットーであり、利用者に穏やかに暮らしてもらいたいと職員は利用者と接している。そして利用者と家族がこのホームを利用していることを喜んでくれ、本人も家族が安心して、残された余生を安心して暮らしてくれるよう職員一同が努力している。そしてリーダーや職員は「今ではもう仕事としてではなく、自宅に帰っても利用者達が気にかかる。我がままだろうが何だろうが受け入れたい。人生の先輩として、学ぶべき事も多いのに、他所で認知症扱いをする話しを聞くと、認知症の人も普通の人と同じなのに腹が立つ」と言う。利用者大好きな職員に支えられ、利用者は弱き利用者を助け合えるホームの普通の生活が送れる暖かい空気の流れるホームである。

特に改善の余地があると思われる点

①　ホームにとって今何が必要か、どうありたいかを職員全員で具体的な目標を掲げて、一つひとつずつ達成していってもらいたい。この達成感が大きな原動力となるだろう。

②　介護計画や記録から利用者一人ひとりの状態をよく把握していることが汲み取れるが、もう一歩改良を進めて、ホームのケアに直結した介護計画や記録が形づくれるようにしてもらいたい。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か
記述回答	1、 自主評価について･･･ 母体法人「桜梅桃里」の名称が、このグループホーム全体の理念を表わすものである。花木を代表する桜梅桃が一人ひとりの人格の尊さと人生の歩みを表わすもので、利用者や家族の幸せな余生をしっかりと支えてくれるホームとしての誇りをいつまでも持ち続け、発展できるよう職員一同頑張っている。 2、 全体的に見て･･･ 前項の全体を通してこのホームの特長を記述しているが、利用者が家族に連れられ自宅に帰ったが、しばらくすると落着かなくなって、ホームに帰りたいと言い出し、家族から「ホームにいる方が、家に居るより落着くみたいです。良くしてもらっているんですね」と感謝されたそうだ。ホームに居たいと言ってもらえることがホームのプロとしての介護職を実現したことになる。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か
記述回答	1、 自主評価について･･･ ホームとしての施設は申し分ない造りであり、改善すべきところはない。利用者１８人は同居状態といった感じでホームの中を右往左往している姿は、ソフト面での空間利用は１００％と云っても良い。 2、 全体的に見て･･･ 昼のＮＨＫ連続ドラマが始まると、隣のユニットの住人がテレビを見に来た。「どこ座ろうか」テレビ横の長ソファに腰掛けている人に「ここええ？」と聞くと「どうぞ」と笑顔で迎えている。「ええお天気になりましたなー」「ほんまになあ」気軽い近所付き合いが出来る光景は微笑ましい。広い外回り空間で、洗濯物を干したり、土いじりをしながら存分に外に触れて生活を楽しんでいる。農作業に携わってきた人も多いので、畑はどんどん拡張して、ネギ、大根、白菜と季節野菜は栽培されている。利用者の当たり前の生活が自然に継続できていた。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
記述回答	1、 自主評価について･･･ ホームは国道５３号線に面し、外は車の往来が激しいので内扉は施錠してあるが、利用者は広い敷地の中で自由に過ごすことができ、散歩や外出は職員と一緒に出掛けるので問題はない。食事は業者の食材納入と週2回はホームで献立して調理している。全体的にケアマネージメントの改善事項はないが、一つひとつの重点項目を定めて改良を積み重ねていく。 2、 全体的に見て･･･ ホームに入所した時は、暴力的な行動や暴言があった人、精神安定剤や眠剤が処方され、足取りも不安定で食欲もなかった人、せん妄や徘徊があった人、何度も尿路感染で発熱していた人、奇声を発していた人等が、ホームでの心のこもった職員の声かけや関わりによって、利用者は安心と信頼の気持が持てるようになり、食欲も出て、良く眠れるようになり、会話も出来るようになって一人ひとりが人間としての生活ができるようになり、家族もびっくりする程になった事例が大変多い。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。
記述回答	1、 自主評価について･･･ 管理者（法人副社長）とユニットリーダー2人が中心となり、全部の職員が協力して昨年度からケア及びサービスの質の向上に努力している。医療機関の院長も地域を訪れ、講演等して地域への貢献をしている。オーナー、法人、ホーム全体が協力して無縁であったこの地域での交流が始まっている。 2、 全体的に見て･･･ 町の主催する健康福祉大会や展示会、工房展の見学に行ったり、建部花火大会にも積極的に出かけて行った。「どんな所かと敷居が高かったが、皆が穏やかに過ごしている」とホームを見学に来た人々は言ってくれ、徐々に地域にも受け入れてくれ、町や地元の人も協力的な対応をしてくれるようになった。このホームでも3年足らずの間に地域との交流が始まった。管理者は、今後は地域のグループホームとも親睦を深め、共に助け合っていきたいと意欲的に考えている。